

# 「上山城」からのたより 初冬・第173号

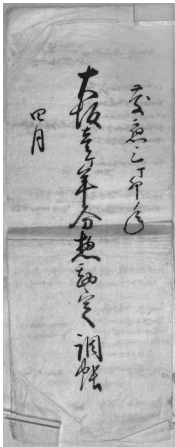
## 上山藩士の借金事情（上山藩中老 山村求馬を例に）

公財）上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

「借金」と聞くと思わず「ビクッ」としてしまふ人もいるかもしれませんが（安心してください）。私もその一人です。多くの人が「借金とは無縁な人生を送りたい！」と願いながらも、そんな人生を送ることができないのは極少数の人のみというのは、今も昔も変わらないことだったようです。

掲載した画像は、慶応二（一八六六）年末から翌年にかけて、「大坂加番」（大坂城警備）で上山から大坂に向いた上山藩の金銭の出入りが記された帳面「大坂沓ヶ年分惣勘定調帳」です。その中に、上山藩と藩士間の金銭貸借について、次のような記載が確認されます。

【原文】右之内貸覚「中略」  
（寅・慶應二年）十二月十七日一、五拾両 山村求馬殿 御勝手伺済 上山二而上納之約定／「中略」三



惣勘分寄贈／物贈（個人保管）  
「大坂調帳」(上山城)

月六日（慶應三年）一、貳両 右御同人（上山藩士 山村求馬） 祐定短刀身代／二月廿三日（慶應三年）一、三十五両 右御同人 大小身御役所預り「後略」（現代語訳：大坂にて藩士への貸付金覚え書き（中略）慶應二年十二月十七日、山村求馬に五十両貸す。この金について、山村は上山帰国後返済すると藩の財務担当者に約束している（中略）慶應三年三月六日、山村求馬に二両を貸す代わりに、同人から短刀（備前長船派刀匠祐定作刀）を預かる。慶應三年二月二十三日、山村求馬に三十五両を貸す代わりに刀と脇差を藩の役所で預かる（後略）

山村求馬とは藩の中老を務め、戊辰戦争では総督を務める（山形県真室川町及位附近で戦死）など、藩内では「超」がつくほどの上級藩士となります。しかし、そんな山村でさえも、返済約束の言質、さらに、刀を担保にとられるなど、簡単にお金を借りることができなかったことがわかります。なお、山村は大坂滞在中、藩から合計百両以上借金をし、さらに、名匠 月山貞吉・貞一合作の短刀を購入していたことが判明しています。借金は全て刀剣購入費に消えたのか？それとも…。

それはともかく、ついつい出費が増えてしまふほど大都会 大坂は刺激的な場所だったのかもしれないね。

ちなみに、山村さんが購入した短刀、来年、上山に一時里帰りするかもしれませんよ!?乞うご期待願います!

【常設展示室から】抽選で景品が当たるクイズ上山城探検を毎月実施中。クイズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。